

## 2017年から2021年にかけて岡山県で集めた子牛下痢症例を用いた牛ロタウイルス A 感染症の発生調査

水戸康明<sup>1)†</sup> 梅田浩二<sup>2)</sup> 鈴木 亨<sup>3)</sup>

- 1) 岡山県農業共済組合 備中家畜診療所 (〒719-0303 浅口郡里庄町浜中 93-269)
- 2) (株)イーダブルニュートリション・ジャパン (〒501-1101 岐阜市佐野 839-7)
- 3) (国研)農研機構動物衛生研究部門札幌研究拠点 (〒062-0045 札幌市豊平区羊ヶ丘 4)

(2023年5月26日受付・2023年7月28日受理・2023年9月28日公開)



本文はこちら  
[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/76/9/76\\_e264\\_/article-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/76/9/76_e264_/article-char/ja)

### 要 約

2017～2021年にかけて岡山県で集めた子牛(2～257日齢)507頭から下痢症例516検体を用いて牛ロタウイルスA(RVA)感染症の発生を調査した。516検体中、152検体(29.5%)から牛RVAが検出された。診療回数、発症日齢、転帰、発症季節、性別に関して、感染の有無をもとに両群間で統計解析を実施した結果、牛RVA感染症はそれらの因子に関係なく、発生していた。上記の牛RVA陽性糞便のうち、25検体を用いてG遺伝子型及びP遺伝子型を決定した。その結果、G6P[5]、G6P[11]、G10P[11]がそれぞれ32%、24%、32%の割合で検出され、岡山県内には複数の異なる遺伝子型を有する牛RVA株が存在した。今回の研究を通じて、他県での調査と同様に、岡山県でも牛RVAが子牛下痢症の主要な病原体の一つであることが示唆された。——キーワード：牛ロタウイルスA、子牛、下痢。

-----日獣会誌 76, e264～e269 (2023)